



第 2 号
 京都教育大学教育学部
 附属桃山中学校
 同窓会
 発行人 会長 村俊平
 京都府伏見区桃山井伊橋部東町16
 TEL (075)611-0264-5

校歌を口ずさみつつ思うこと

教頭 川崎 英 一

「(1)千歳の山河 展眺して
 桃山の丘陵 照り明る。われら
 が学び舎 尚き理想 日々に新
 たに。燃ゆる息吹も、逞しく
 明日の文化を担うまで。(2)樹
 々の緑に飜して 桃山の丘陵
 鳴り響む。われらが学び舎。重
 き使命 直く 明る。力協せ
 て 絆かに 世の福祉を 果た
 すまで。」

これは、昭和三十三年三月に
 制定された本校の校歌である。
 本堂にいい詩であると思う。入
 学式や卒業式でもとより、生
 徒たちがバスで旅行する時もみ
 んで誇らかに歌っている。本
 校は、この歌ができてからでも
 もう二十年、創立からだとして
 六年目を迎えることになる。そ
 の間の卒業生は約四〇〇〇名。
 日本各地に、いや、海外にまで
 卒業生の名が見える。本堂に心
 強い限りである。

今、手元にある「十年史」「
 創立二十周年記念誌」「創立三

十周年記念誌」をひもといてみ
 た。それぞれに、その時代の附
 属桃山中学校の顔がある。「附
 属中学校を守ろう」と、「附属中
 学校を造ろう」と、本校の基
 盤づくりのために、学校・保護
 者が文字通り心をひとつにして
 幾多の辛酸をなめながらも、厳
 しい試験をのり越えられた時代、
 本校が現在地に移転し、特殊学
 級開設(昭和四十四年、附属養
 護学校設立に伴い分離)、体育館
 兼講堂竣工、校歌制定、学級増
 と校舎増改築、プール竣工と、
 いよいよ「充実発展する時代、そ
 して、現在、普通学級九学級、
 帰国子女教育学級三学級(海外
 から帰国した子女に対して、そ
 の海外生活によって生じた教育
 差を補うことを主目的とする学
 級で、一学年の定員は十五名)
 計十二学級、教職員数三十名余
 の学校となつてゐる。

「附属桃山中学校の伝統を守
 り、充実した中学校生活を送り

ます」と宣誓して、毎年、百数
 十名の新入生が桜咲く校門をく
 ぐつてはいつてくる。本校の伝
 統とは？ それは、「尚き理想
 」をもち、「逞しく」しかも「
 直く明るく絆らか」な人間を育
 てる本校の土壌であり、一旦事
 ある時は、みんながガッチリ手
 を組んでぶつかつていく行動と
 団結の力であろうと考える。今
 日までの本校の歩みを眺めた時
 この伝統が、いつ、どのように
 して生まれてきたのがよくわ
 かる。そして、現役のわれわれ
 は、これをどこまでも守り続け
 ねばとその責任を痛感する。

しかし、今日の社会は、楽観
 できない要素があまりにも多
 すぎる。豊かすぎず物質文明、き
 びしい進歩競争……ふと、
 気がつくとも目先の利益に目を奪
 われていたり、義務や責任を完
 全に忘れていたり、権利意識にふり
 まわされていたり、学校と家庭
 間や親子間の信頼の絆が切れて
 いたり……、本堂に淋しい限
 りである。その中であつて、思
 わぬ所で、思わぬ時に、今、実
 社会で活躍しておられる多くの
 先輩の方々から「実は、私も附
 属桃山中学校の卒業生です。今
 母校の様子はどうですか」と温
 い声をかけられる。そして、力
 を貸していただける。本堂にう
 れしくなる。心強く思う。本校
 は、目には見えない、しかし温
 い多くの同窓生にしっかりと支
 えられているという感触がひし

ひしと伝わってくる。だからこ
 そ、中学生問題がとやかく言わ
 れる中で、本校生徒は、何とか
 落ちついた学校生活を送れてい
 るのだと感謝している。そして、
 こういう時代だからこそ、より
 真剣に、「逞しく、直く、明る
 く、絆かな」人間育成を考えね

あゝ、同窓会

同窓会長 八期生 長 村 俊 平

母校、京都教育大学附属桃山
 中学校を卒業した我々は、卒業
 時に終身 費(入会費)を支払つ
 て、全員が同窓会員となる。私
 も昭和三十一年三月、学校の好
 意で、トコロテンのように押出
 して頂き、嵯峨野高校、関西西
 科大学、京都府立医科大学産婦
 人科医局、府立医大関連病院を
 渡り歩いたあと、八幡市男山で
 しがなない街医者を開業して早や
 十一年を経過しようとしている。
 附卒業後、山陰線花園駅近
 親の都合で十六年間生活し
 たが、何故か身体に合わないら
 しくて、生れ故郷の八幡へ帰っ
 てきてしまったのも、田舎生れ
 で桃山の附属育ちのせいかも知
 れないと、蛙ではあるまいに、
 自分の帰郷性には恐れ入ってい
 る次第である。

丹波橋通の街並も、附中のキ
 ャンパスの雰囲気もすっかり変
 容してしまつていて、古いOB
 にとっては、見る影もないと吠
 えたくもなるところだが、今近
 ばと反省している。
 本校を卒業して、京都の七つ
 の附属で活躍している教官は、
 約十名を数えている。奥谷先生
 もご健在である。
 本校同窓会の発展を、心から
 お祈りする次第である。

鉄が下を走っている丹波橋通り
 の、あの錆びた鉄の橋と桓武天
 皇御陵の森だけがそのまま、
 目立って懐かしいのは私だけだ
 ろうか。

卒後二十五年目(昭和五十六
 年)に、学校も同窓会も顧み
 たことのない私が、前会長奥川氏
 より、同窓会長を引き継いで
 みたが、会長とは名ばかりで、
 何の働きもしていないのが実情
 である。各期の評議員や理事の
 方々が名簿の作成に、「つゆ草」
 という同窓会報の原稿集めに、
 そして広告掲載のセールスにと
 奔走して頂いているのである。
 又広告とりをして頂いたおかげ
 で百六十万円を超える収入があ
 がり、今回も約五年振りに名簿
 が、約三年振りに「つゆ草」の
 発行が可能になつた訳である。

我々同窓会の収入の途は、唯
 々毎年卒業生の支払ってくれる
 約十九万円という失礼だが僅か
 な金額で、愈々四千人にならん
 とする同窓会員の、名簿、つ

ゆ草”の発行費、会議費、通信費(会員、住所確認のための、全国各地への電話代等は評議員、理事達の自前)等々を全て賄ってきたのである。

役員の間でも毎年会費を徴収して、運営し易いようにしてはどうか、という意見も度々であるのだが、従来の原則(卒業時の入会金と臨時の収入)をできる限り貫こうということで落着き現在まで四苦八苦しなうながら、繰返しているのである。

この原則を維持するには、会員諸姉諸兄より宣伝効果の上らない、殆んど寄附行為に近い広告を載せて頂くより他に手段はないのである。

このような事情を会員全てがよく理解され、全員が名簿、”ゆ草”の購入を、次回発行の際には広告掲載に絶大な支援を下されば、一層内容の充実した名簿と会報をお届けできると確信します。

尚、同窓会総会開催の折には、こぞって参加されんことを希望します。

みみっちゃん会長挨拶の辞になつてしまいました。貧乏ではあります。皆様の御協力でもなく不況から脱出できる日も近いと思ひます。これからも同窓会をよろしく願ひします。

カルメン

現教員

奥谷忠彦

テレビの歌劇カルメンにかじりついて、久しぶりに十五年前の感慨にひたつた。あの時、子役で出演した合唱団員のことか思い出されたのである。もうみんな立派なお母さんになつてい

るが、それぞれの胸にどんな思い出となつて刻みこまれていたのだろうか。当時、年に何回か校外のステージを持つ機会があつたが、やはりカルメンの出演は忘れられない大きな出来事であつた。幾日か経つて東京の桜井さんから便りが届いた。彼女も同じ番組を見たとのこと、お

そらく私よりもっと生々しく、胸を熱くして観賞されたに違いない。少女時代の美しい思い出を熱く語りながら、昔語りされる得意満面の様子が、文面を通じて手にとるようになつて来た。生徒は暗れの舞台であつたが、私はと言へば毎夜舞台の袖で彼女らの様子をうかがつていただけであつた。しかし私は舞台の袖でも不思議な感動を知つたのである。それは生徒が兵隊に

ついて二部合唱で歌うところ、始めは細かい子供の声が浮いたように、透きとおつてひびき、そのうちにトロンボーンの低い音がうなりを立てて厚味を加えていく。それが舞台の足許からずしーんと全体に伝わってくる

のである。その時、舞台は丁度大きな共鳴箱になつて天地をゆするがごとく私を包み込んだ。頭のしんにじーんときて、音が自分か、自分が音か、何とも不思議な境地に置かれたあの「時」の流れを今も鮮やかに思い出されるのである。

子育てのつづき

元教員

大南永明

私はあの法悦境を求めて夢我夢中になつてあてもなくさまよひ続けてきた。今にしてみれば、ずい分無理な要求を生徒時代の皆さんに押しつけてきたものだと思う。いつたい皆さんはどう受けとめられたのでしょうか。

附桃中の同窓生の皆さん今日は。ずい分長い間ご無沙汰しています。私が在任した二十九年から四十三年の間の在学生の方々はいまも立派な社会人、よき父親母親として活躍されておられることと思います。私は女子教育に専念しますと申し出て附中を去つて早や十五年、現在ノートルダム女学院の中、高校で教鞭をとつています。私の方の子供も附中時代、日曜や休日の出勤日に子供をつれて行き仕事の子供達によく用務の松井さんのバイクに乗せて貰つて町中の散歩につれて貰つたことでした。

その子供達も早や成人し、上は大学院の修士を終えて建築事務所勤務、下は明年商社へ就職を考へている大学四回生となります。私も教職歴が今年で通算三十五年となり、午後四時の先生になりつつあります。

皆さんのお子達も早い人は中高生おそい人でも小学生位かと

をもつかという命題は規定の紙面で語りつくせませんので割愛することにして、成長の過程で親として最も考へねばならないことは環境といえます。孟母三遷の教への通り学校の雰囲気、友人との交わりは成長の過程で、後年成人後の人となりに重大な影響を及ぼすことを考へて下さい。特に男の子の思考や思想の良きバランスは友人とのかわり合いに大いに影響を受けます。それと子供の成長に大きな力となるのはむしろ、知的な面を除けば家庭にあります。成人後の人となりのうち、優しさや思いやりは学校とともに家庭での母親より生活習慣も学校以上に母親より受継ぎます。一方父親からはその生きる父親の後姿より人生観や信念といったものを受継ぎ人生でのチャレンジする心も両親より受継ぐものです。こう見えますと子供の成長への親としての心くばりは成績と塾家庭教師、有名高校、有名大と直線的な手段よりも、皆さんが老後になられ成長した我が子がいつまでも外にあつても家庭の内にあつても外にあつても親と子のきずなが保ち得るような、たのもし成長を考へてみられてはどうでしょうか。そのための教育にかかわる出費が多くなつても親として本當の満足が味わえるのではないかと思ひます。学歴や才能があつても冷たい荒れた心をもつた息子や娘と生きゆく

悲劇にならないように考えられることの大切さを今日までに多くの事例でみてきました。まあ皆さんとの再会を楽しみにして

筆をおきます。

思いつくまゝに

六期生 種村裕侑

途上です。

のろまなことが甚しく、未だ附属を離れることができずに、三十二年間という人生の大半を附属ですごしています。
昭和十九年、梅組入園以来、大学を附属に含めると、高校、京都市教員の各三年以外は、附属のお世話になりっぱなし。我れながらあきれていきます。
三十九年四月、多くの恩師が御活躍中の母校に気恥しい思いで就任。ふと気付いてみると、奥谷先生だけ。在職年数では二番目になってしまいました。それ故、附属を見る目は、卒業生としてより、現職教員の立場になつてしまいます。

それから、六期生の私達が通った御陵の下の校舎、今は市立呉竹養護学校となり、校舎も建替えられ、当時の運動場には沢山の建物が並んでいます。ボールを拾いにいっては叱られ、柿の実を盗つては追いかけられた

煙も、立派な家屋が建ち並んでいます。御陵の内に入った方が中学時代を想い出させてくれます。

現在、四名の卒業生が母校に勤務しています。同窓生諸氏の忌憚のない御批判、御助言の窓口にして下さい。諸氏の御期待に添えるような附属中学校に発展するように微力ながら努力したいと考えています。

附属高校ができ、中学校は三学級に増設され、更に、帰国子女学級も設置されて、大きく発展してきました。が、教師として、三年間に一度も話す機会もなく、顔と名前が一致しないままに送り出す生徒もでてきています。校風、生徒の気質も、世の移りかわりと共に、いつとはなく少しずつ変わってきているよ



(現職員)

うに思います。確かに、冷めた生徒も出てきています。球技大会に熱中し、勝って泣き、負けて泣く場面もあり見受けられなくなりました。「練習より本番に強い」「日頃はどうかあれ、この時だけはしっかりやる」といった特色も薄れてきたようです。附属桃山と言えば、直ぐ「自由でのびのびした……」が浮んでくるのですが、従来のよ

一応 母親ですが……

十二期生 野村治恵

長男が一年生の時、学校で家族調への様な事があったのですが、長男は、「ぼくのおとうさんは、まいにち、かいしゃへいってしごとをしています。ぼくのおかあさんは、まいにち、ぼくのおとうとは、まいにちなおとくんとあそんでいます。ぼくのいもうとは……。」と、書いていました。家へ持つて帰って来たそのプリントを見て、私はもうビックリしてしま

い、「お母さんは、毎日、洗濯掃除、食事づくりと色々なことをやっていますよ。」と、遂声荒げてしまいました。けれども考えてみますと、洗濯、掃除は、子供達が学校へ行っている間に済むし、食事の用意にしても、朝はトーストと牛乳、ジュース、果物、たまご、チーズなどの中から適当に組み合わせるだけ。昼は給食。夜はと言えば私が夕食の準備をしている時は自分はテレビに夢中で、午後のしばらく、私が新聞を読んだりテレビを見たり本当にボーッと

している時の姿の方が印象強かつたのではないかと思うのです。「母原病」というのがあります。長男がその頃、外へ出て活

発に遊ばず、家の中でゴロゴロしていたのは私をこの様に見ていたからではなかったかと思う様になりました。又、授業参観で、子供が発表する時など体をクネクネ動かし少しもじつとしていないのを見て、どうしてこの子はこうも落ち着きがないのだらうと、子供を責めておりました。これも私に原因があったのではなないかと思う様になりました。

新聞やテレビなどで、非行少年少女の育つた家庭の状態を知つて、「こんな育て方されたら私だってこれ位の事、いやもつとひどい事をしたのでは……。」と感じる時があります。それと程顕著な場合はともかくも、無意識のうちに、子供に対して随分悪い影響を与えているのではないかと、考えますと、果すベき役割の重さに身の引き締まる思いがします。

元来、怠惰で忍耐力のない私は、このままでは決して子供達に良い影響を与えられないはずがありません。素晴らしい子供に育つて欲しいので、まず自分自身が素晴らしい母親になれる様、毎日心して生活しなければならぬと思つて居るのです。

恥ずかしい いとおいしい

十五期
岩崎俊一



小学校の同窓会誌だと、勝手に思いこんでいた。

三十歳を過ぎると、小学校はさすがにはるかな時代になってしまふ。思い出は、すべてがおだやかに、まろやかに変容し、そこは、ただひたすら「ぬくい場所」になるのである。

原稿が遅れ、催促の電話が来た。僕は念を押すぐらいの気持ちで、小学校でしたよね、と聞いた。「エッ、中学校ですよ」。

さざ波がサーと広がった。中学校と聞いた瞬間、自分でも驚くほど動揺してしまつた。誰かが見ていたら、顔が赤くなつたのを見とがめられたかも知れない。

恥ずかしい思い出がある。

国語の試験のあとであった。漢字の書き取り問題で、僕ははひとしきり騒いでいた。僕が初めて出会う言葉であった。意味すら全く想像がつかなかった。

コウ書クンジャンイカ。大きな声で僕は言っていたと思う。近くの席にすわっていた彼女を意欲して、僕はシタリ顔して、たに違いない。僕は彼女が好きだった。

もちろん僕の答が正解である

はずはない。絵に描いたような醜態である。卒業間際、僕はそれを思い知らされる。個人あての寄せ書きで、僕は彼女からのそのことをはつきりと指摘されたのだ。顔から火が出る、という言葉の真意を、その時僕は初めて知った。

つくろ。飾る。見栄をはる。未だにそこから卒業できないままに、今日まで生きてしまつた。だが、僕が暴走しそうになるたび、あのからだ中が熱くなるような恥ずかしさがよみがえってきて、すんでのところまでブレーキをかけてくれている。そんな気がするのである。

中学生という、やっかいな年頃を生きているのは、もうごめんである。でも、おとぎ話のように浄化された小学校時代の思い出と違い、中学校時代は、まぎれもなく今につながっている。僕らが大人になる道で知ったさまざまな体験の、いちばん先頭に立って、なつかしうに、恥ずかしそうに手をふっているのは、まがいなくあの頃である。中学校というのは、僕にとつて、格別にいとおいしい季節である。

住めば都

五期生 鎌田光三

入社以来十七年間大阪の地を離れなかった私に、初めての転勤命令が出されました。ベルギー国ブリッユセルでの駐在員事務所開設がその任務でした。

ベルギーは、北はオランダ、南はフランス、東はルクセンブルグと西ドイツに接し、西は北海に臨みドーバー海峡を隔てて英国と対しており、二時間も車で走ればいずれも国外に出てもう小国です。

EC本部、NATO本部の所在地というより小便小僧で有名な首都ブリッユセルは、人口規模、歴史的な落着き、発達した食文化等で京都と共通点のある都市と言えるでしょう。この首都を中心に南東部のワロン(フランス語圏)と北西部のフラマン(オランダ語圏)に二分され

、両社会の対立は色々な社会問題を生み、小国ベルギーの悩みとなつていますが、一旦外国との関係が生じると挙国一致団結する所は、やはり幾度かの被征服の歴史をくぐり抜けて来たした、かさなのでしょう。

ライン・ローヌ・ドナウ・ポー川などアルプスに源を発するヨーロッパの主要河川は、古来色々な面で重要な役割を果たして来ましたが、石灰分が多量に含まれていることから一般に飲用

あの方は至って清潔に楽しませている点はトレビアンであります。

習慣の違いで気付いたことの一つに、私達日本人は食事の際、すい込み型の為音を立て、しまいますが、彼等は流し込み型の為音を立てないことが基本となつて居ることです。又クシャミ、シヤックリ、ゲツブといったむしろ私達にとつて自然現象と思われるものを押殺す一方、人前で左手にもみくちやのハンカチを持って、大きな音をたてながら鼻をかむことは許されているのも奇妙に感じられました。要は風俗習慣の違いから、お互いに誤解が生ずることのない様にしておくことが肝要なのでしょう。

新しい経験、驚きと興味の連続で、三年余りの滞在期間も一瞬の内過ぎ去りました。住めば都とは良く言つたもので、出張から帰つて来て、あの小さなザペンテム空港(ブリッユセル郊外の空港名)におりたつと、いつの間にか我が町に帰着いた気分がホツとしたことが懐しく、昨日のこの様に思ひ出されます。

83-8-28

(ZCS)
同窓会総会
都ラド
京グテ
ホ

12.00

見知らぬ街で

十期生 大槻 哲 夫

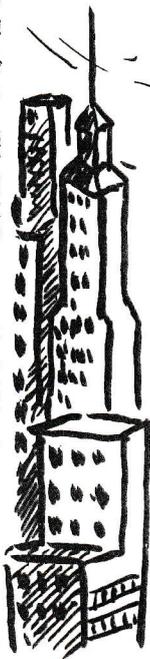
三期生 扇子 豊

私の好きな作家である井上靖は「西域物語」の中で「私は学生時代に西域というところへ足踏み入れてみたいと思った」と書いています。彼はこの夢を追いつづけ、後年実現させた。彼にとつて「西域」という言葉には「未知、夢、謎、冒険」といった要素がいっぱい詰っていたからである。この「西域」への強いあこがれが井上靖の「西域物語」といわれる作品のスケールの大きなロマンを作るためにひと役買っているし、あこがれの対象はそれに対する抑制が強い程より鮮明になるとい

う逆説的効果が作品の中でしばしば用いられる手法となつたのだろう。それとも、このあこがれの強さが多産なこの作家のエネルギー源となつているのだろう。しかし、平凡な人間にとつて、井上靖の「西域」に対するのと同質なあこがれをもち続け、具現することはなかなか難しい。

私にとつてこれまでに「未知、夢、謎、冒険」といった要素を含んだ「西域」があったとすれば、数年前に経験した米国での生活がその一つであつたと思ふ。異文化の中で、何が待ちかまえてるかと思ふながら見知

らぬ街角を曲がる時に感じる一種の引きしまる緊張感は今もつて新鮮に蘇ってくる。もちろん、私の想像の実際の「西域」とちがつて、米国では長い歴史や広漠たる自然と対比させての人間の小ささを感じることはない。しかし、見知らぬ街での私は自分の履歴にひきずりまわされることのない一個のエトランゼであり、その時その場での自分しか頼りにすることが出来ない「裸の人間」として日々の生活に処して行くしかなかつた。こうした毎日にはある種の孤独



が「日本人から来た日本人」であることがわかること

感、開放感とともに、予期せぬことにも対応ができるようにいともびんと張りつめていくことの快感があつた。良し悪しは別にして日本の生活には個人の履歴等に根ざす先入観の上になり立つ部分が多すぎるように思ふ。たとえ米国で日本人同志が会つた時に、出身校、卒業年次などをそれとなく尋ねることから始めるのはそうした習慣をひきづつていたためであらう。日本で一見して外人と見える人に道を尋ねる人はまずないであらう

が、私は米国へ行って二日目くらいに「米国人」から道を尋ねられたことがあつた。目や皮膚の色、またその履歴に関係なく、その時、米国の街を歩いている人は「米語の話せる米国人」なのだろう。このような雑多な「米国人」を一つに結びつけているものは日本人の場合のように民族の絆でなく、星条旗であり米国歌なのである。事実、種々の行事、フットボールの試合の始めに至るまで、星条旗の掲揚、国歌斉唱の機会がなんと多いことであらうか。ひとたび私が「日本人から来た日本人」であることがわかること

にわたる質問をしてくる米国人の好奇心の旺盛さには驚かされた。すぐに答えないと、自分の米語が理解されなかつたと思つて、ゆつくり尋ねをおしてやる。どつこい質問が解せぬのでなく、日本語で尋ねられても答がわからぬのである。日本文化の古いでない私の場合には仏教の宗派に關したことがその例である。こんな時程、自分が自分の母国について余りにも無知であ

分ですごしてきたことを情なく思うことはなかつた。米国で生活して改めて日本が単一民族の国であつたことを強く認識した。単一民族の国では、要するに互いは今更裸にしてみる必要がない身内なのである。ともあれ、終生、自分にとつて「未知、夢、謎、冒険」の要素の詰つた「西域」をもちつづけ、そこに身をおくことになつた。同窓会の幹事の小田垣寛大兄から日頃の無為の償いに、私の経験した米国での生活に關連した話で何枚かの原稿用紙を期日までに埋めるようにいわれた責をこの小文で果させてもらいたく思う。

最後に幹事の方の御苦労に深く感謝します。

過日、同窓会の役員会に出た際、二十期位後輩の若い人達がクラス会もやらないし、又やる気もないという発言にやや失望した。世の中十年ひと昔というが、考え方もずい分変わったものだと思ふ。勿論それだけ年寄りになつたのかも考えられるが、私共が中学生の頃、各先生方に「アダ名」をつけて呼んでいた。これもお互い親しみの表われだつたのかもしれない。ちなみに一部を御披露すれば、数学がマンモス、理科がワイコー、音楽がアサヤン、歴史が玄尚さん、体育が寺本本さん、国語が大根、英語がホームベイス、家庭科が鼻ピク、この方は今マンモスの奥さんになつてられる。私共はこれらの先生方一人一人にクラスとしての思い出をもつても一同に会すると、話題はつきることがない。こうした先生と生徒の關係が現在では受験という名のもとにお互い疎縁になつて来ているのではないかと少しさびしい気がします。若い時代・中学時代は一生で一度しかないのです。どうか楽しい思い出をつくつて下さい。……と私は言いたい。

⑤ 数学加藤先生、理科横井先生、音楽奥谷先生、歴史服部先生、体育寺本先生、国語櫻井先生、英語村上先生、家庭科五十嵐先生。アダ名の由来は又後日

プロフェッショナル語録

相対主義の時代

十期 佐和隆光

私が附属桃山中学校を卒業したのは、昭和三十三年のことである。この年の前年には、かのスプートニクが打上げられ、世はあけて科学技術の威光に照射されていた。「もはや戦後ではない」という謳い文句に象徴されるように、この頃、日本経済はすでに高度成長の離陸（ティク・オフ）期にさしかかっていた。科学技術の振興と高度経済成長は、私達の日常生活にも「革命」をもたらしつつあった。家庭電化製品と自動車の急速な普及は、家庭生活と地域社会のありようを一変させたのである。

「進歩」に限りがあるとは、誰も思わなかったし、科学や技術の振興は、万人に幸福をもたらすものと確信されていた。こうした進歩主義と科学技術信仰にかげりがさし始めたのは、昭和四十五年前後のことである。十年余りにわたる高度成長の挙句におそわれた飽食感、そして高度経済成長の裏面に隠されていた、科学技術のもたらす罪悪が表沙汰になったことが相まっになり、「進歩」を疑うようになり、科学技術に背を向ける

ようになった。経済成長を至上の目的とする既定の路線は、変更を余儀なくされ、環境保護、福祉などが最優先の政策目標とされる気配する垣間見えた。ところが、四十六年のドル・ショック、四十八年のオイル・ショックに見舞われた世界には回復の見込みのたてがたい慢性不況が到来した。そのためもあってか、路線は再度の変更を余儀なされた。再び、いかにしてインフレなき高度成長を達成するかという、昭和三十年代に論じつくされた旧来の政策課題が前面に押し出されたのである。著しい保守化が進行し、フランスを除く先進資本主義諸国のいづれにおいても、「強者の論理」と紙一重の、保守的経済政策が実践されるようになった。

私が中学を卒業して以来、ちょうど四半世紀を経た。この四半世紀間、右に概略を述べたように、社会を律する価値規範は右から左へ、そして左から右へと、一巡を経てきたようである。こうした経緯の中から、私達は、こうした教訓をくみとらねばならないだろう。かつてそれぞれ

の時代において「絶対的」と信じられていたものは、時の経過とともに、地に墮ちることが必ずあった。こうした経緯がありありと示す様に、科学であれ技術であれ、はたまた経済成長であれ福祉であれ、「絶対的」な価値の座標軸とはなりえない。



「心身症について何か書いてくれ」と長村会長から電話をもらいました。そう言えば、羽田空港での日航機事故から、一年が経過します。トピックスと言えば、政治家の自殺とか、壮年期のうつ病の方、今、世間の注目を浴びているなと思いつつ、精神科疾患に悩む人達にとって、病気が世間の注目を浴びると言うことがどんなことなのか書きたくなり

『心身症』雑感

八期生 田原明夫

私は、今、大学に籍を置いて外来や入院の患者さんの診察、医学生や看護学生のおつき合、そして保健所での精神衛生相談などの仕事をしていますが、その大半は、精神疾患への偏見をなくし、当面している人達に安心してもらう努力に費やされています。人間誰しも病気になる

あらゆる「価値」を相対視するという、相対主義の視点にたつことが、今の時代、何にもまして必要ではあるまいか。

病に苦しみ、自ら生命を断つた小林美代子という作家が、小説「髪の花」の中で書いています。「健康な人が殺人を犯しても、健康な人たちは他人事として心を痛めないが、精神病者が罪を犯すと、全精神病者が罪の意識に小さくならねばならない」と。殺人者には、その人なりの理由があります。その人だから殺したのです。ところが、病者が罪を犯すと病気のせいにしてしまわれます。精神病は罪を犯す病気では絶対ではありませんが、犯人が病気だと解ると、その病気が罪を犯させたような錯覚が世間に拡がります。病気をもったある人が、ある事情のもとで罪を犯したものであって、病気に悩む人のほとんどは罪を犯すどころか、小さくたって世の片隅に生きています。

くことも難しくなりました。精神分裂症と同じく、そんな病名の診断書は会社に提出できないといわれてしまふのです。

日航機のあの機長が「心身症」だったと宣伝されたばかりに全国の心身症に悩む人達が、身を小さくしなければならぬ。こんな話こそ、本当に変な話です。又、事故は重大な惨事でしたが、本人にとっても大層不幸でした。十分な治療を受けられ

新酒寒造り

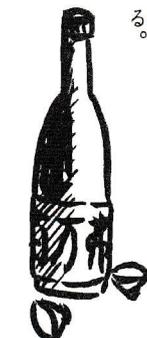
四期生 吉村源一郎

師走は暖冬で日本列島に冬がなくなつたかと案じられたが、年が更り「大寒」に入るや寒気団がやって来た。大学で微生物や酵素を研究して家業に入つて二十年目の造り酒屋の次期当主の顔も八間張りの土蔵造りの窓から入つて来る北風に思わずはころんだ。毎年極寒の頃を選んで「寒造り酒」の仕込みに入るからである。当家に杜氏(とうじ)として勤務して三十年近くになる酒造り職人長は但馬流酒造術の伝承技能士であり、一年の半分は当家で、春夏期は山陰の山畑で山仕事、但馬牛の飼育をしている白髪の七十近き好人物である。この杜氏が寒造りになると、普段より頻りに酒倉の中を白衣姿で温度計等持ち歩き下人に指示し、陣頭指揮にあたる。一月中旬から二月十日頃の

れば回復し第二の人生があったでしょうが、事故のために、マスクミに追われ、廃人同様の状態へ追い込まれたことでしょうか。皆さんには、正しい精神衛生の知識を身につけていただくようお願いするとともに、人間にレツテルを貼ること——精神病だから怖い——はやめていただきます。と、お願いいたします。

京大病院精神科医師

寒造り(別名吟醸造り)は杜氏の気ままに経済性を無視して腕の技をいかんなく発揮させて酒を造らす「趣味的な酒造り」である。米は山田錦、雄町、五百萬石の酒造好適米の品種を(当家では普通仕込みに好適米保用率は伏見でも最高)を五〇%も精白して、手法は普通仕込みと異なり手造り法を多く用いる。例えば洗米もザルを持たせたと八十数名を並べて、杜氏のストップウオッチにより、洗米浸漬を分単位で行い(普通は洗米機で洗い、浸漬時間も十二時間単位)、米を蒸すのも和釜の上で「飯(コシキ)」を乗せて蒸し上げ、布を広げて地面で放冷し、麹も一升盛り「麹蓋」(コウジブタ)を旧式製麹室(むろ)に入れて低温で長時間、たえず人手をかけて、ハゼこうじに仕上げる。



既(モト)と呼ばれる酒母工程も急がず、低温並行複酵を心がけ、純粋培養した酵母を通常の数倍使用して約十二日で仕上げ、本仕込の「醗(モロミ)」に入れる。この段階になると、酒倉の中は、デリシャスな香が立ちこめ、寒中の低温と相まって、静かな低温醗酵が進んでいく。やがて、時が来て、杜氏の上槽の声がかかると、醗酵の終了した醗をしばり、液体部分が「吟醸酒」(キンジョウシュ)である。固体部分が「吟醸粕」と呼ばれる。粕までも、貴重品扱いされる。大学で醗酵性微生物(酵母、乳酸菌、大腸菌)を培養し、それが持つ酵素の特性やその結晶の折出で、大喜びをしていた時代から二十年、今や新聞や雑誌で「ご存知のバイオ・テクノロジー」と呼ばれる微生物の遺伝子操作をも、やらかす時代になった。清酒に關する微生物のかび、酵母、乳酸菌等も人間の力で異なったタイプの新微生物に変形されて、新型微生物により、酒造りが行われる様になるかも知れない。そして、新しいタイプの清酒が生まれる可能性がある。しかし、当主の意地と杜氏の口マンをこめた「寒造り」は、当家では、永遠に続ける積りである。

口腔外科と口腔癌

七期生 白数力也

過日、突然に八期生の長村氏から原稿依頼の電話を頂いた。どんな原稿かと聞くと「各方面で御活躍中の同窓生各位から、専門的な立場での原稿を依頼している」とのことである。さて、私の専門である口腔外科は顔面領域に關連する諸組織の疾患、損傷、欠損などに対する診断、手術的処置ならびに付随的処置に關係する歯学の一分科である。口腔は消化器官の門戸という立場からみると、当然のことであるが、人体中最も硬度の高い歯牙および顎骨といった硬組織、筋肉の固まりである舌、大小様々な唾液腺などが混在し、歯牙以外のものは粘膜上皮に覆われて、各々与えられた機能を果たしているところである。従って、何らかの疾患が存在すれば、その機能のバランスに破綻を来たし、その結果、病変は口腔内だけにとどまらず、全身的な疾患へと波及していく。又、全身疾患の一症状としての口腔内症状、例えば、白血病の口腔内出血なども枚挙にいとまがない程である。さて、口腔の病変には、どんなものがあるかという点、う蝕、歯周組織疾患とそれに関連する疾患を中心として数百種にも及ぶと考えられるが、口腔外科で取り扱う疾患の代表的なもの、奇形、發育異常、外傷、炎傷、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患、神経疾患、唾液腺疾患血液疾患などである。このうち疾患の予後などから考えて、最も重要なものはやはり、悪性腫瘍であろう。口腔に發生する悪性腫瘍はその頻度から、癌腫、肉腫、悪性黒色腫といった順になるが、癌の内でも、口腔粘膜上皮の組織構造上から、当然、扁平上皮癌が最も多く發生する。さて、いわゆる口腔癌とはどういう部分に發生したものをさすかという点、UICC(国際対癌連合)によつて解剖学的に頬粘膜、歯肉、硬口蓋、舌(前方 $\frac{2}{3}$)、口腔底に分けられている。しかし、現在、顎口腔外科領域として、取り扱われているものは、UICCの分類によるものばかりでなく、上顎洞性の一部中咽頭の一部、あるいは唾液腺癌などが含まれている。本邦における口腔癌は、全悪性腫瘍の約二%を占めている。腫瘍は肉眼的に直視下にある為、早期発見は比較的可能である。しかし治療の時期を逸したり、治療せずに放置すれば、もちろん不幸の転帰となる。口腔癌の正確な病因は不明であるが、粘膜上皮に変化を起し、悪性へと進行するような因子はある。その因子

女子テニス部といっしょにやり
たいという希望がいくつか出て
いたようなので、K君どうかよ
ろしくお願いします。
(書く事に困って仕方なく内輪話で
ごまかした27期生評議委員H・S)

同窓会の渉外の役を引き受けて

二期生 若林 敏之

名簿発行の仕事が始まった時は未だあまり切迫感はありませんでした。しかし、いろいろと仕事の打合せが続いて話が具体的に
金集めのことかいな、と背筋が寒くなってきました。今日の世の中、財源がなくては何も出来ません。印刷費や郵送料も万
高くつく世の中、必要な金額を聞いてふるえたのも無理ないこと
とでしよう。一人で寄附を集めることも出来ません。不可能で
した。そこで御存知のように会員から広告を頂いて財源に当てる方法を
とらせて頂きました。この原稿を書いてい
だ名簿は出来上っていませんが、おそらく名簿員より広告員のほ
うが多いのではないかと想像されます。広告入りの同窓会名簿
なんて初めてという方が多いと思います。恥しいような気がし
ますがやはり私は胸を張って自慢したいと思
います。多くの同窓の方があらゆる方面で多
彩に、精力的に活躍し、繁栄しておられるのを目の当りに見ること
が出来ます。あの店も同窓か、この方もそうだったのか、と広

告をみるだけでも楽しいことでしょう。広告して頂いた方は
告のメリットが少ないとお考え
かもしれませんが、決してその
ようなことはありません。目に見えぬ連帯感が培われていくもの
と思います。このように仕事をさせて頂くと、人の心や情がよ
くわかり、私自身にとっても有意義でした。広告を頂いた
方だけが情けも心も持っていないとは考えていません。しか
し、お願いして心よく広告を出して頂き、また広告不要だから
励ましの手紙を添えて頂いたり、たとえ千円の現金書留でも心
が暖まり、頭の下る思いでした。理事の方々も、それぞれ私
生活を持ち、お忙しいのに貴重な時間を割いて随分と御協力
頂きました。お越し頂いて、お顔を合わせると御礼申し上げ
ました。本当に御苦労な御礼申し上げました。これからは
編集、校正、印刷など大変な仕事
が待っています。その方面にもまた同窓の諸兄が目に見えぬ努力を
して下さることでしょう。
会報「つゆ草」を手にし、同窓会名簿を開ける時、どうか

申し込み

8期生 長村俊平まで!

SPECIAL SALE

☆ 附桃中オリジナルTシャツ

男S・L・M, 女S・L・M 2500円

KKデサント広報宣伝課長

8期生 日下部 昌和 デザイン

☆ 附桃中オリジナル酒

企画中近日発売予定

多くの協力を惜しまなかった人達の目に見えぬ努力の重みを、ずっしりと感じ取って頂きたいと願っております。

編集雑誌記帳

- ◎ 会員名簿とつゆ草の編集が重なり、簡単に考えていたのがあまりの始まり。
- ◎ 専門とは言え、原稿がなかったり、訂正がまぎわまでであったり、進みのおいことこの上なし。
- ◎ できるだけ、新鮮なものと思う親心?かもね。
- ◎ 他の学校と比較すれば、会員数によるが、これでも六ヶ月くらい早かったのではと...。なぐさめることしきり。
- ◎ 今後は若い人のユニークなセッスにまかせたい気持でいっばい。
- ◎ 我々の世代はもう、ディスコへ行っても、腰痛になったり、リズムにのれなかつたりで、年を感じないわけにはいかない。
- ◎ それに、中年ともなれば、仕事の面でも中枢的な位置になつてゆくために、ぜひ若い人にお願ひ、お願ひ、お願ひ。
- ◎ 仕事から若いつもりでもやっぱり古いふるーい感覚であるぞよなあー。
- ◎ 附桃中のために若者よたちがれ!!

編集長 小田垣 覚
10期生